

地域おこし協力隊活動実績報告書

隊員氏名：吉田 宙斗

- ・活動期間：令和元年9月1日～令和2年3月31日
(委嘱日：令和元年9月1日)

1. 隊員の活動テーマ

活動テーマ	定住促進・農業振興
より具体的なミッション	<ul style="list-style-type: none"> ・休耕地を活用した甘藷本格栽培 ・農産物の販路拡大と特産品開発 ・収穫量・販売単価の向上など、農業の仕組みづくり ・地域おこし協力隊から新規就農へのモデル構築

2. 活動の検証

(1) 定住促進への直接的効果

移住等の相談を受けた件数	1件(1人)
移住希望者に現地案内などの活動を行った件数	件(人)
うち移住につながった(つながる可能性がある)人数	件(人)

具体的な相談の内容	<p>大阪府在住の方より、移住および就農の相談をされる。何度か定住促進サポートセンターとの相談を経て、固く移住を決心されている。兼業農家で収入を得たいという希望があった。農地を借り入れることや農業技術等の相談があったため、資料を元にして伝えられる範囲で相談に乗った。今後、南丹市でボランティアや集落のイベント等の情報があった場合は積極的に教えてほしいと要望があったため、円滑な移住に向けて情報の提供を行っていく。</p>
-----------	--

<p>今後の展開や展望または反省点など</p>	<p>今後、私自身が農業（特に野菜作）を通じて中山間地における就農の在り方を明示していく必要があると実感。 来年度において、私が結果を出す事によって、一つの就農の在り方として移住希望者や就農希望者に提示していくことが可能になる。 現状まだ結果が出ていないので、定住促進に関してはイベントへの参加以外は消極的であったと思う。</p>
-------------------------	---

(2) 具体的な活動について

<p>活動を展開した地域数と名称</p>	<p>地域数： 3地域 地域の名称：(日吉町上胡麻・美山町中・園部町西本梅)</p>
<p>移住者受け入れや地域振興への意識が高まったと思われる地域数と名称</p>	<p>地域数： 0地域 地域の名称：()</p>
<p>今後継続的なアプローチにより意識が高まる見込みの地域数と名称</p>	<p>地域数： 3地域 地域の名称：(日吉町上胡麻・美山町中・園部町西本梅)</p>

活動内容	現在の課題	期待する成果・展望
<p>(日吉町上胡麻) 居住地を起点として、農地取得等を京都府農業会議及び農業委員の協力の元、2020年度栽培に向けて準備。 日吉町においては合計 15a 分の畑を確保。一部を育苗用地・野菜作をし、その他は甘藷栽培に充てる予定となる。</p>	<p>土質が悪いため、改良が必要となる。 条件不利地のため、プラソイラ等も入れることができない。 そのため、もみ殻・燻炭・セスバニア緑肥等の自然物を利用した土壌改良を行っていく。 育苗用のハウスの空がなく、空きが出来次第、農業委員より確保・連絡をしていただけるとのこと。</p>	<p>3年後には甘藷栽培において、2000キロ/10aを目指し、土壌の改良をおこなっていく。 育苗については技術導入に向けて広島県の種苗農家様より技術継承。南丹市へ導入する。 また、育苗については任期後、どこで農業を営むにしても比較的温暖な上胡麻で行う予定をしている。</p>

<p>(美山町中)</p> <p>協力農家を中心に全面的なご協力の元、農地の確保。準備を進めることができた。</p> <p>現状、合計 25a ほどの農地を確保済みであり、そのいずれも水はけ・土質良好のため、収量が期待できる。</p> <p>内、半分の面積で白ネギの栽培を行い、もう半分で甘藷栽培を行う予定となる。</p>	<p>現状、繋がりを持っている方がほぼいないため、協力農家を通じて集落に住む様々な方との関係性を築いていく予定。</p> <p>上胡麻に比べても、人口減少や農地問題が著しく、中山間地であることも相まって解決への糸口が中々見えていないのが現状。</p> <p>一方で、少なからず「本当に農業を続けていくのか？」という疑念が方々にあるため、払拭するためにも小さくても結果を残す必要性がある。</p>	<p>中地域における信頼の獲得を第一に考え、水利などの日役には積極的に参加する。</p> <p>収支計画では 1250 キロ/10a でかなり少なく見積もっているが、天候に恵まれれば 2000 キロ/10a も可能なのではないかと思っている。</p>
<p>(園部町西本梅)</p> <p>朝市や集会を中心にスタッフとして参加させていただいている。</p> <p>特にむくむく市や、るり色マルシェには大変お世話になっている。</p> <p>集落の問題点等を解決するため、様々な協議会が開かれている。</p> <p>朝市については今後、さつまいもの収穫ができれば積極的に出品をしていく。むくむく市においては天引を始めとする園部町産野菜が主となるのであろうが、町の垣根を超える第一歩として交渉の余地は十分にあり得るものだと思う。</p>	<p>西本梅、とりわけ天引地域における獣害問題が深刻化している。</p> <p>鹿やイノシシはもちろんのこと、サルによる被害が多発しており、防除の必要性があるだろう。</p> <p>狩猟免許取得を通し、能動的・受動的双方からの防除について考えていく。</p>	<p>西本梅で農地を取得する予定はないが、農業問題については、協力できる範囲で協力していく。</p>

3. 活動表

活動年	実績・効果、目標
1年目	<p>・目標①「地域の理解やつながり作り」 最初期、集落支援員の紹介から、市内における繋がりはかなり増やせたと思っている。 居住地のある上胡麻地域においては積極的に集落の会合やお祭りに参加させていただき、顔と名前を売っている。 特に京都府農業会議、日吉の農業委員、美山の協力農家とは3年を通し、又、それ以降もお世話になる予定。 新たに、若手農業者集会への参加。京都丹波の農業をもっとよくしていこうという思いを元に、緩やかな株式会社化も視野にいれ、「京都丹波もん」という団体がスタート。 日吉町の農家より紹介いただき、私は露地野菜を中心に協力していく予定。</p> <p>・目標②「農業活動」 日吉町上胡麻・美山町中において、合計40aほどの確保が完了。 実質栽培は35a（甘藷22a、ネギ13a）ほどになる予定だが、全面積管理及び土壌改良を行っている。 4月より定植が開始となり、11月上旬までに収穫が完了となる。 収支+30万円を目標とする。</p> <p>・目標③「農育連携」 同志社大学KCJS講師より、留学生の受入依頼がある。 農育連携への多大なご理解を頂き、2月～4月までの間、アメリカ人留学生を受け入れ。 今後も継続した受け入れをお願いしたいとのことであり、今期の受け入れ終了後、同志社大学へ訪問し、今後の打ち合わせを行う。</p>
2年目	<p>・目標①「農業活動」 1年目から引き続き、収量アップを目指し、農業活動を行う。 ハウスの獲得もこの年からできれば最良。</p> <p>・目標②「さつまいもの品種改良」 茨城県農業試験場より、品種改良の方法について、2パターンご教授いただいたので2年目から実施する予定。 交雑育種と選抜育種の2つの方法を使う予定。目指す品種特性については下記の通り。 1. 土質を選ばない 2. 揃いが良い 3. 皮が比較的白い 4. 病害虫に強い おそらく、10年ほどのスパンが必要。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・目標③「新規就農者獲得への取組」 各種移住相談イベントへブース出展などをして、広く人材を集めていく。 また、新規就農者のニーズがどこにあるのかも研究していく。 任期終了後には、南丹市における新規就農者の受け入れ事業なども念頭に置きながら活動をする。 ・目標④「農育連携」 前年に引き続く形で同志社大学との連携を行っていく。
3年目	<ul style="list-style-type: none"> ・目標①「農業活動」 引き続き、収量アップを目指し、農業活動を行う。更に、企業様と提携してブランド化も推進する。 任期終了後の独立、半農半X化に向けて、農地の拡大や半Xの獲得を進めていく。 農地については任期終了後、どの地域を中心に展開していくのか、半Xはどのようなことをするのかなどを考えながら慎重に場所を選んでいく。 しかし、ハウスについては日吉町上胡麻で借りる予定をしている。 ・目標②「新規就農モデル構築」 農業事業については独立後1年で120万円(反収で23万円)を目指していく。まずは半Xの方で安定した収入を得ながら農地の拡大を随時行い、経済的理由で農業を断念しないようなリスクヘッジを取る。 新規就農者の獲得事業については、今後も継続してやっていくのか、それとも後輩協力隊員のミッションとして残していくのかは状況によって要検討。 ・目標③「農育連携」 前年に引き続く形で同志社大学との連携を行っていく。 また、任期終了後も本事業は継続して行い、交流人口・関係人口の確保をする。
任期後に得たい成果・変化(自分自身・地域・関係者)	<ul style="list-style-type: none"> ・京都丹波における新しいさつまいもブランドの確立。 ・交流人口の増加。 ・農業を通じた教育の確立。 ・農業を通じた関係人口の増加。 ・多様な農業の在り方を模索。 ・狩猟免許取得を含む、獣害対策への積極的取組。 ・半農半Xで20代後半年収400万円